徳島県立博物館研究報告
Bull. Tokushima Pref. Mus.
No. 33: 63–69, 2023

【調査報告】

前山遺跡の馬形埴輪の徳島県における位置づけ

河内一浩 [1]

[Kazuhiro Kawauchi : Positioning of horse-shaped haniwa terra-cotta tomb figurines at the Maeyama Site]

要旨：徳島県立博物館が所蔵している前山遺跡出土の埴輪片の中から，馬形埴輪を抽出し，徳島県内・県外に類例を求め，形式・手法を比較した．革帯の装飾方法から馬形埴輪の系譜を紀伊に求めた．また，円筒埴輪の鹿の線刻画から埴輪の技術的伝播が他地域単独でないことも明らかにした．破片から製作時期を絞れなかったが，同遺跡の円筒埴輪の特徴から6世紀前半とした．このことにより，収められている前山遺跡出土埴輪の破片資料の活用法が提示できた．
キーワード：古墳，徳島，馬形埴輪

はじめに

徳島県小松島市田浦町前山に所在する前山遺跡は，昭和37年に蜜柑畑開墾中，完形もしくは完形に近い盾持ち形埴輪，人物埴輪，石見型埴輪以外にも大量の埴輪片が出土した．出土地に古墳の痕跡等がないことから埴輪集積地や埴輪祭祀遺構と考えられてきた（菅原，1988）．

2022年，岡本治代氏によって徳島県立博物館が保管する埴輪発見直後の行政文書が紹介された（岡本，2022）．それによると，「標高50メートル，面積約7, 920平方メートルのうち，西斜面尾根付近3. 6メートルの巾内から0.6メートル間隔をもって配列され，地下およそ0. 45メートルの所から，盾持ち埴輪[1]，人物埴輪，盾形埴輪，円筒形埴輪のほか多数の破片を，柑橘を拡張するために開墾中に

国土地理院2万5千分の1地形図をもとに作製

1 田浦井口（古墳） 2 井口古墳 3前山古墳 4 前山遺跡 5 神子ノ内古墳 6 山ノ神塚古墳 7 新居見遺跡（山路地区） 8 子安観音塚古墳
9 お子守塚古墳 10 田浦遺跡（子安東地区・西地区） 11 女郎ヶ谷古墳 12 義経の岩屋古墳 13 弁慶の岩屋古墳

図1 前山遺跡の位置図（岡本，2022より）

2022年11月30日受付，12月21日受理．
[1] 〒649-6219 和歌山県岩出市北大池．Kitaoike, Iwade, Wakayama 649-6219, Japan.

偶然発見したという.」と『遺跡発見について（報告）昭和 37 年 4 月 16 日付け教社第 194 号』の「現品の処置に関する意見書（副申）」に記述がある．また同文書には「小松島市田浦町出土「埴輪」の概要」と題して次のような報告がある.「発掘現場は 3 つの円墳があり，4 個の埴輪はもっとも北側の円墳の中に埋葬されたもので古墳時代中期のものと推定される」とある．これにより，前山遺跡から出土した埴輪群は，古墳に伴うことが明らかとなった[2)].

行政文書の記述にある，埴輪が古墳に伴うとする所見から前山遺跡出土の埴輪は墳丘に囲繞されていたと理解したい.

前山遺跡出土の埴輪は，その多くが徳島県立博物館に保管されている[3)]．徳島県立博物館の資料は，2022 年に岡本治代氏が報告されている（岡本，2022）．徳島県立博物館に所蔵されている埴輪を 2021 年（令和 3） 1 月 28 日に見学し, 2022 年（令和 4）6 月 17 日に実測を実施している．円筒形埴輪，朝顔形埴輪，建物形埴輪，大刀形埴輪，馬形埴輪，人物形埴輪，蓋形埴輪，靫形埴輪，盾持人埴輪，石見型埴輪，盾形埴輪が報告されている．筆者は数度，前山遺跡出土の埴輪を見学する機会を得，岡本氏が報告した以外にも馬形埴輪片を確認した.

そこで，本稿では新たに実測した馬形埴輪とその所見を報告するものである．今回報告した実測図が前山遺跡出土の埴輪研究に少しでも活用されれば幸いである.

なお，現在行方不明となっている『小松島市史』掲載の前山遺跡出土の馬形頭部の破片は，徳島県立博物館に所蔵されている前山遺跡とは別遺跡である[4)].

1．前山遺跡の馬形埴輪

今回報告する破片は 5 点で，頭部の破片が 4 点，脚部が 1 点である．以下，概略を報告する.

図 2- ①は，緩やかに湾曲する破片に，面繋表現の幅約 2 センチの扁平な粘土帯が貼り付けられる．粘土帯の上面には櫛歯の刺突が施されている．また下方にはヘラによる刻み目が施されている．破片には楕円になると考えられる穿孔と剥がれた痕跡のある部分に円形の穿孔が認められた．粘土帯が対にあるので，前者が眼孔，後者は耳と耳孔であることが解る．馬形埴輪頭部左頬に該当する（頭部片位置図の①）．岡本（2022）の図 4-6 の資料と同じである.

図 2- ②は，緩やかに湾曲する破片に，面繋表現の幅約 2 センチの扁平な粘土帯を貼り付け，上面には櫛歯の刺突が施されている．破片には二か所に円形に近い穿孔が認められ，その位置関係から馬の目に当たる．また，その周囲に盛り上がりが観察できるので瞼表現と理解している．両眼孔から面繋表現の粘土帯を介したところに，粘土帯に接して直行する剥がれた痕跡が認められた．鬣の痕跡と考えている．したがって, ②は馬形埴輪の頭頂部に該当する（馬頭復元図の②）．岡本（2022）の図 4-5 の資料と同じである.

なお，②の破片には頭頂部の面繋の辻金具表現は無いようである.

図 2- ③は，緩やかに湾曲する破片に，面繋表現の幅約 2 センチの扁平な粘土帯を貼り付け，上面には櫛歯の刺突が施されている．粘土帯の剥がれた痕跡から T 字形に面繋表現が復元できる．面繋の結節箇所の辻金具表現は，欠損しているため不明である．眼孔は破片では確認できないが，耳孔と考えている円形の穿孔とその周囲に剥がれた痕跡が回るので耳と考えた．また，頬の部分に位置する部分は周囲より若干窪めていた．したがって，③は馬形埴輪頭部右頬に該当する（馬頭復元図の③）．岡本（2022）には提示されていない破片である．図 2- ①から③の破片に見られた面繋の刺突から，各破片は接合しないが，同一個体と判断している.

図 2- ④は，面を持ち，ヘラによる切り込みがあることから，馬形埴輪頭部先端の破片と考えた．切り込みが唇の表現と判断し，平坦面に鼻孔がないことから下顎の左下部分にあたると推定した（馬頭復元図の④）．轡については，剥がれた痕跡を観察できなかったことから不明である．岡本（2022）には提示されていない破片である.

図 2- ⑤は，湾曲する筒状の破片で，上方に広がる形態を呈する．外面はタテハケ調整を施し，内面は縦方向のナデ，そして上方に広がる部分にナデ調整が観察された．形態や調整から馬形埴輪の脚部と推定されるが，前脚か後脚かの判断はできなかった.

以上，確認できた馬形埴輪の破片は 5 点であった[5)]．特徴が見いだせない頸部，胴部，脚部などについては，今後は破片の胎土，色調，ハケ目同定などで不明埴輪から抽出していかねばならない作業であろう.

2．徳島県内の馬形埴輪

前山遺跡の馬形埴輪について評価するために，徳島県内出土の馬形埴輪を見ることとする．川端遺跡の報告書（徳島県消防防災安全課ほか，1999）に提示されている埴輪出土地名表によれば現在のところ 8 例である[6)]．ここでは，前山遺跡 A，川端遺跡，マンジョ塚古墳，渋野丸山古墳，長田遺跡を取り上げることとする.

前山遺跡 A は，小松島市田浦町字前山 23 に位置し，馬

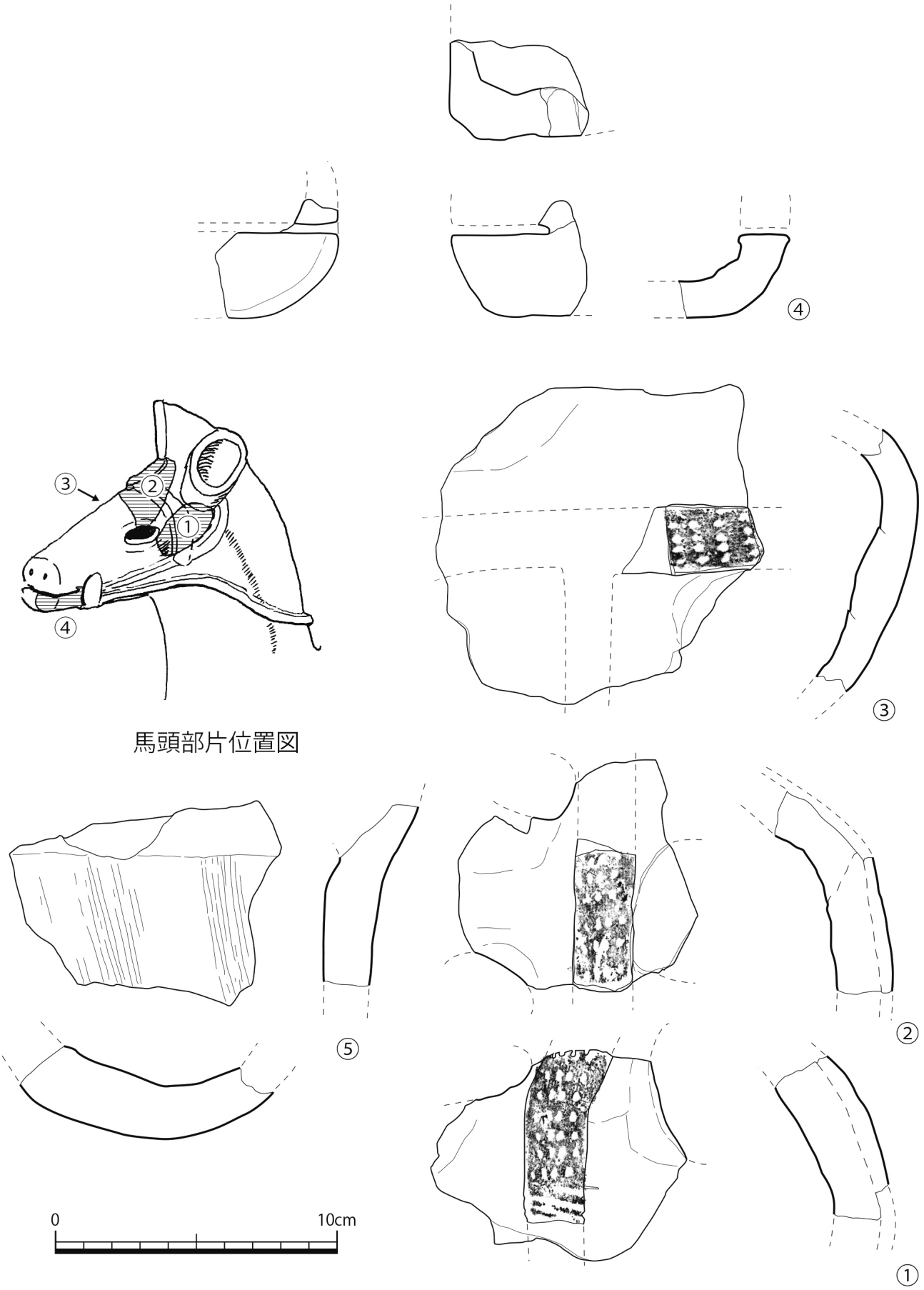

図 2　前山遺跡出土の馬形埴輪実測図（河内実測）

形埴輪が赤土採土により昭和 27 年以前に出土している．『小松島市史（旧小松島町の巻）』には，馬形埴輪の頭部の写真が掲載さている．一部の破片が小松島市教育委員会に所蔵されている [7]．

川端遺跡は，板野郡板野町川端に所在する弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡である．出土した馬形埴輪は，面繋や手綱表現の頭部片，蹄表現のある脚部片，胸繋，尻繋表現のある胴部が出土している（徳島県消防防災安全課ほか，1999）．面繋は f 字形鏡板付轡を粘土板により表現している．尻繋の環状雲珠は，中央部に穿孔が認められた．

マンジョ塚古墳は，徳島市渋野町に所在する．墳丘が開墾によって改変されているが，現状では直径約 12 m，高さ約 2 メートルの円墳と考えられている．埋葬施設は不明で，古くに鏡や三鈴，剣などが出土して第二次世界大戦の戦災によって消失したと地元では伝えられている．埴輪は馬具を装着した表現がある約 10 センチ四方の破片である．実見はしていないが，輪鐙が貼り付けられた粘土紐で表現された障泥部分で，縁には刺突文が施されている（田中，1968）．

渋野丸山古墳は，徳島市渋野町三ツ岩に所在する前方後円墳で，徳島市教育委員会による発掘調査により墳丘長 105 メートルで，盾形周濠が巡ることが明らかとなった．出土した円筒形埴輪から 5 世紀前半の築造時期が考えられる．また，船形埴輪など多くの形象埴輪が報告されている（徳島市教育委員会，2017）．2018 年度実施の前方部第 1 調査区で馬形埴輪の破片を見出している [8]．確認できた破片は頭部の鼻孔，下顎，耳や鞍，脚部，胴部，尻尾の破片である．

長田遺跡出土の馬形埴輪は，大正 13 年（1924）に板野郡堀江村池谷字長田にあった古墳から瓦土の採土中に円筒形埴輪とともに出土した．長田遺跡は，今の鳴門市大麻町池谷にあたり，その周辺は良質の粘土が取れるそうで埴輪窯か埴輪製作工房が存在した可能性も考えられている．馬形埴輪は，現在徳島県立博物館が所蔵され，実見することができた（徳島県立博物館，1983）[9]．

本稿では頭部片のみ取り上げ，図 3 に提示した．資料は，目の上縁を含む額から項（うなじ）にかけての破片で，両耳の先端と鬣の先端は欠損する．粘土紐による面繋と引手が立体的に表現されている．さらに赤色顔料により彩色される．額革の中央には，線刻のある金具が表現されている．鬣は棟髪状に調髪されている．馬形埴輪とともに出土した円筒形埴輪は，断続ナデ A 手法による突帯が観察されたので，5 世紀後葉から 6 世紀初頭に位置づけられる．

3．前山遺跡の馬形埴輪の位置づけ

前章で，徳島県においての馬形埴輪は 5 世紀前半に出現し，5 世紀後葉から 6 世紀初頭に最盛期を迎えることが分かった．

前山遺跡の馬形埴輪の遺存する破片からは，残念ながら年代を決定づける手法は確認できない．そこで，共伴する円筒形埴輪から考えてみる．観察できた円筒形埴輪の最下段突帯に，断続ナデ手法を用いるので 6 世紀前半の製作年代が考えられる．この点は，前山遺跡から出土した石見型埴輪においても，その段帯の施文が線刻になり 6 世紀を中心とする年代比定からも矛盾はない．

次に馬形埴輪の系譜であるが，今回観察できた資料では鬣，鏡板，鞍，鐙，障泥，雲珠などの部位は見いだせなかった．唯一，馬装で観察できるのは面繋である．前山遺跡の例は，額革を表現する粘土帯の上面に櫛状の刺突文が観察された．徳島県内で確認されている馬形埴輪の面繋の装飾は確認できなかった．他地域で，面繋の装飾は大和や河内で観察できるが，櫛状の刺突については大日山 35 号墳出土の馬形埴輪の例があげられる（和歌山県教育委員会，2013）．石見型埴輪についても紀伊との共通要素をすでに指摘している（河内，2009）．

前山遺跡から出土した埴輪には，紀伊との共通要素のない資料も存在する．その一例として，円筒形埴輪に見られた鹿の線刻である．現在までに紀伊においては鹿の線刻がなく，紀伊以外の地域を考えなければならないであろう．

円筒形埴輪にみられる鹿の線刻は，九州から関東まで広域に見られるが，地域によってその分布の多寡がある．九州では今のところ肥後中の城古墳の 1 例で，摂津，河内，和泉，山城，大和といった地域に数基点在して分布する傾向にある．

また，大和地域より東域においても散見できる分布状況である．各地域でみられる鹿の図像には統一性がなく，雄鹿の特徴である角が枝分かれした表現の有無が見られるが時期差あるいは地域性の違いかは答えを見いだせていない．

徳島県内では前山遺跡以外に土成丸山古墳に存在する（阿波市教育委員会，2010）．頭から尻まで単線で描く鹿の表現は，頭部を意識し，枝角が無い単線で描かれている．丹後や山城，下総では 2 本線や輪郭で描く胴部の存在が認められるので，単線による頭部，胴部表現の鹿の線刻は地域性を示すものと考える．吉備においても類例を求めることが可能であろう．

前山遺跡出土の円筒形埴輪に描かれた鹿の線刻は図 4，図 5 に提示したように，胴部は単線で表現されているのが

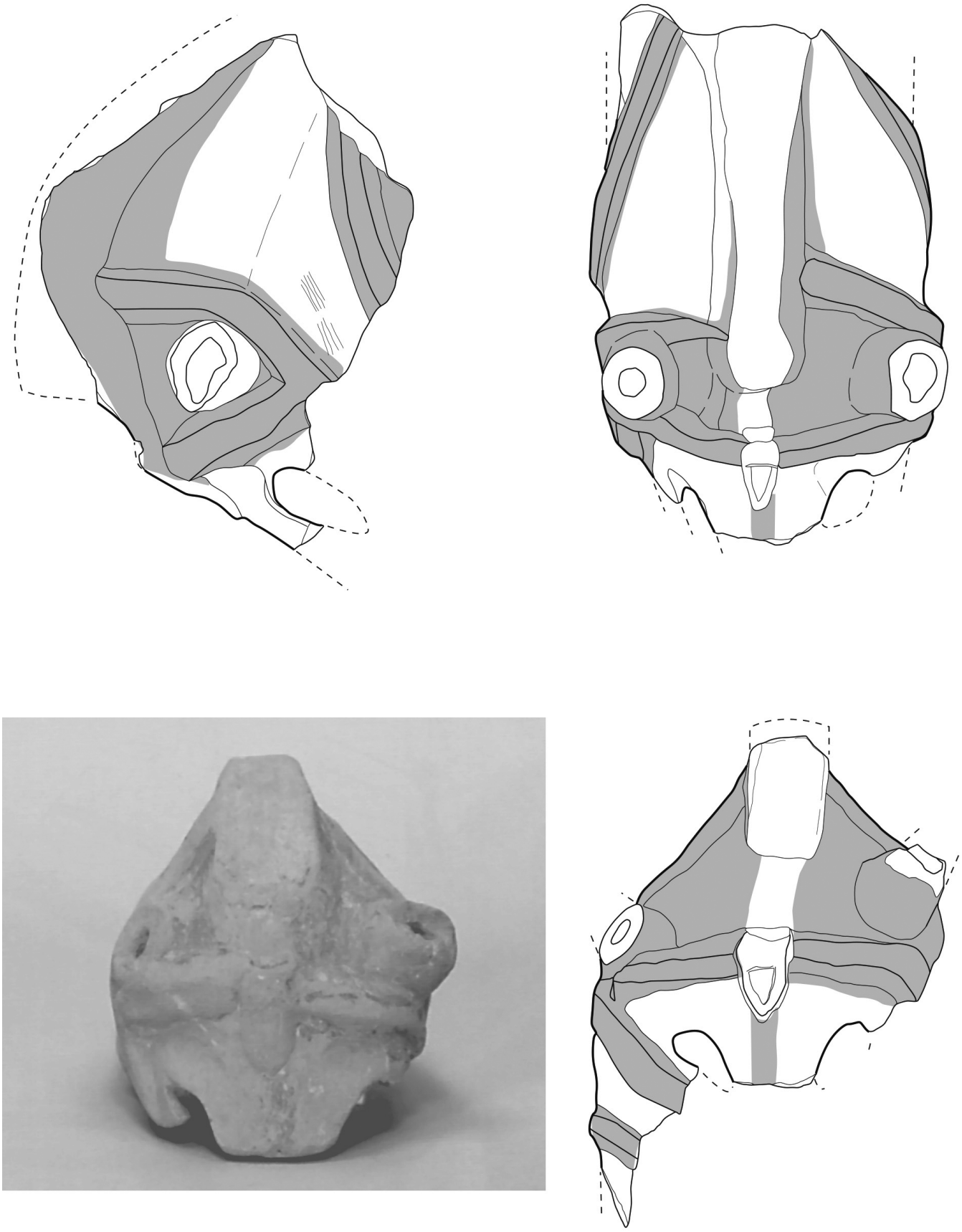

図 3　長田遺跡出土の馬形埴輪実測図（河内実測）

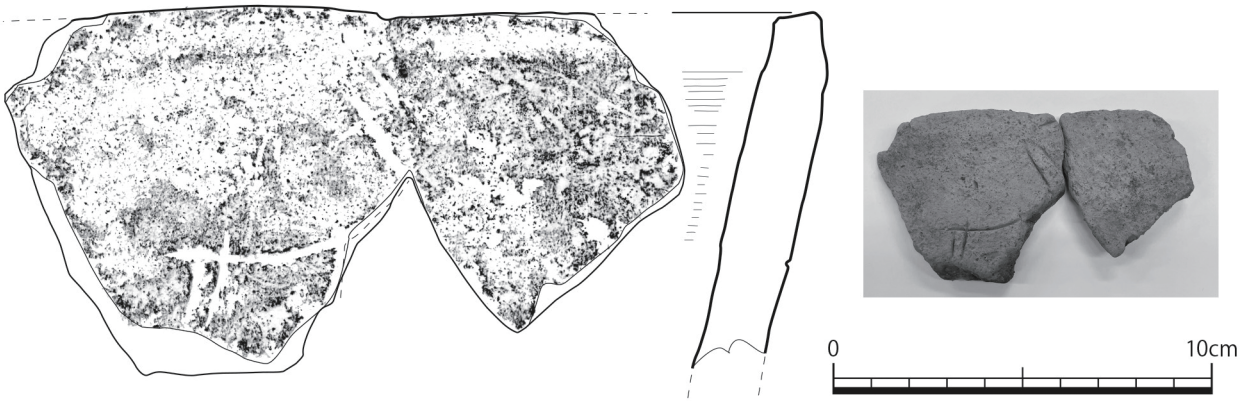

図 4．前山遺跡出土の鹿線刻埴輪実測図（河内実測）

観察できる．2 点とも頭部については，欠損し詳らかでない．

まとめ

以上，徳島県立博物館が保管している前山遺跡から出土した馬形埴輪について概述し，徳島県内出土の馬形埴輪と比べ，製作時期や関連する地域を検討した．

破片点数が少ないため，馬形埴輪から製作年代を決める手掛かりはなかったが，共伴する円筒形埴輪から 6 世紀前半の時期と考えた．また，馬形埴輪の製作にあたっては面繋の装飾により，紀伊地域の馬形埴輪が関連するものと推測した．ただし，円筒形埴輪に見られた鹿の線刻は，紀伊では確認できなかったので，埴輪製作にあたり紀伊以外の地域も見出すことが，今後の課題であろう．

今回は馬形埴輪と線刻埴輪を紹介したが，徳島県立博物館が保管されている前山遺跡出土埴輪を活用することを目的に，今後も他の埴輪について継続して観察とその成果は改めて報告したい．

駐

1）盾を持つ表現の埴輪は，手が表現されておらず人物埴輪の一つではなく器材埴輪と考えている．したがって，本稿では「盾持ち形埴輪」と表記する．

2）昭和 38 年に刊行された報告書（末永ほか, 1963）では，埴輪発見者の証言として「古墳を取り巻く状態ではなかったという．」と報告もあり，今後も検討が必要であろう．

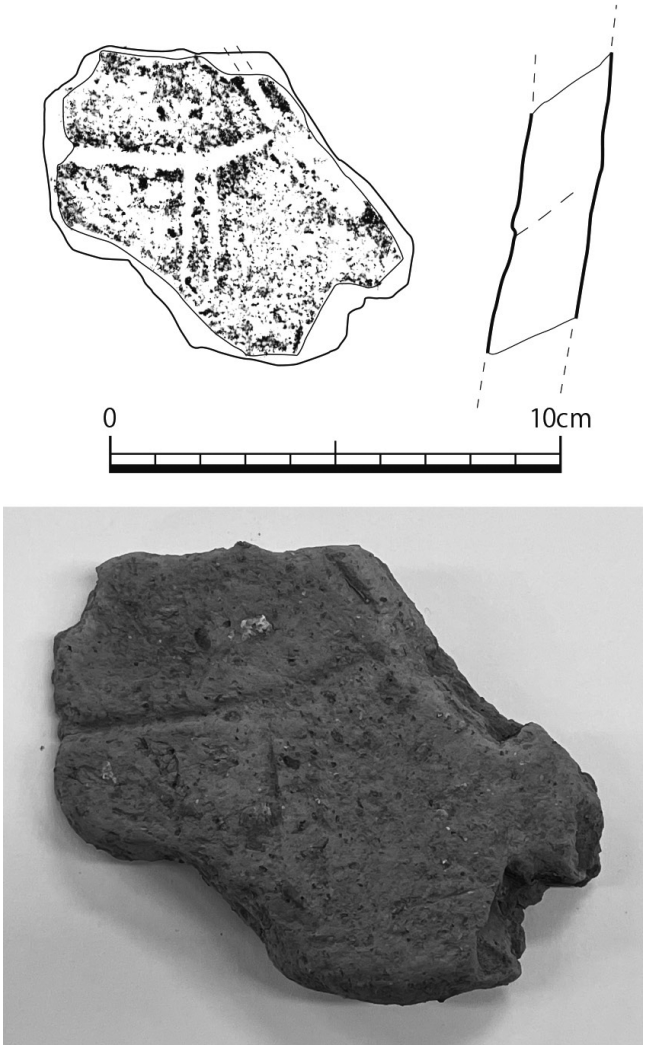

図 5　前山遺跡出土の鹿線刻埴輪実測図（河内実測）

3）京都国立博物館，小松島市教育委員会に所蔵されている．

4）『小松島市史（旧小松島町の巻）』に鬣，耳が欠損するが，完形に近い馬形埴輪の頭部が掲載されている（小松島市役所教育課，1952）．環状轡と思える表現，面繋には辻金具が表現されている．そのほかに障泥や尻繋と思われる破片が写っている．

5）岡本（2022）では，図 9 の 5 を鞍の部分と推定されているが，今回の観察では鞍と判断できず，本稿では除外している．

6）川端遺跡の報告書（徳島県消防防災安全課ほか，1999）の徳島県埴輪出土地名表には，①前山遺跡 A（小松島市田浦西浦），②マンジョ塚古墳（徳島市渋野町栗田），③遺跡名無（徳島市八万町西光寺），④かきづか古墳群（鳴門市大麻町池谷），⑤長田遺跡（鳴門市大麻長田），⑥川端遺跡（板野郡板野町川端），⑦太鼓塚古墳（美馬郡美馬町僧坊），⑧秀森北塚古墳（三好郡三加茂町中庄）の 8 例が記載されている．

7）現在，小松島市教育委員会に所蔵されている埴輪片の中に馬形埴輪の障泥の破片があり，栗林誠治氏が報告している（栗林，2014）．

8）渋野丸山古墳出土の不明形象埴輪を見学させていただく機会を得，馬形埴輪の存在を確認した．

9）長田遺跡出土の埴輪は，宮田竹三氏が保管され（高島，2013），その後徳島大学の沖野舜二氏が徳島大学で保管していたが，1982 年（昭和 57）5 月 1 日に馬形埴輪の頭部，鞍部分の破片 6 点と，円筒形埴輪 1 点が寄贈されている．馬形埴輪の脚部についても徳島大学に保管されていたが，今は徳島県立博物館に所蔵されている．実測は，2022 年（令和 4）6 月 25 日に実施している．

謝辞

本稿を作成にあたり，下記の方にご教示や便宜をいただきました．ここに記して深謝いたします．

植地岳彦・岡本和彦・岡本治代・西本沙織・藤川智之・村田昌也（50 音順・敬称略）

引用文献・参考文献

阿波市教育委員会．2010．土成丸山古墳発掘調査報告書．阿波市教育委員会，徳島．

河内一浩．2009．阿波における石見型埴輪の受容．一山還暦記念論集刊行会．一山還暦記念論集　考古学と地域文化，p. 469–478．一山還暦記念論集刊行会，徳島．

栗林誠治．2014．勝浦川流域における前・中期古墳の動態．青藍，(10) :77–91．

小松島市役所教育課．1952．小松島市と古墳，小松島市史，p3–4，小松島市役所，徳島．

岡本治代，2022．徳島県小松島市前山遺跡出土埴輪．徳島県立博物館研究報告，p63–74，徳島県立博物館，徳島．

菅原康夫．1988．日本の古代遺跡 37　徳島，245p．保育社，東京．

末永雅雄・森　浩一・島　五郎．1963．前山古墳．25p．徳島県教育委員会，徳島．

高島芳弘．1997．小松市前山遺跡出土のシカ線刻埴輪片．博物館ニュース，(28) :4．

高島芳弘．2013．宮田蘭堂と大麻町周辺の古墳調査．博物館ニュース，(93) :3．

田中英夫．1968．徳島市澁野古墳群の出土品．古代学研究，(53) :28–31

徳島県立博物館．1983．徳島県立博物館所蔵資料目録 12 考古．32p．徳島県立博物館，徳島．

徳島県消防防災安全課・徳島県教育委員会・㈶徳島県埋蔵文化財センター．1999．金泉寺遺跡・川端遺跡　中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書．193p．徳島県埋蔵文化財センター，徳島．

徳島市教育委員会．2017．史跡渋野丸山古墳発掘調査報告書Ⅰ．34p．徳島市教育委員会，徳島．

徳島市教育委員会．2020．史跡渋野丸山古墳発掘調査報告書Ⅱ．26p．徳島市教育委員会，徳島．

和歌山県教育委員会. 2013. 大日山35号墳発掘調査報告書．230p．和歌山県教育委員会，和歌山．

図版出典

図 1：岡本治代作図を引用した．岡本（2022）のｐ 63，図 1 より引用した．

図 2：河内一浩の実測による．

図 3：河内一浩の実測による．

図 4：河内一浩の実測による．

図 5：河内一浩の実測による．